



がんちゃんのIPE通信

IPE (Intellectual Property Education)

知財GPの進展状況——平成18年度を振り返って

知財教育実行委員長・地域連携推進センター教授 佐藤 祐介

現代GP全学的知財教育プログラムは、今年度から本格的に立ち上がり、「知財入門」や「知財ワークショップ」等の6つの知財関連授業科目が展開されたほか、「特許データベース」講習会からはじまり最近の知財教育フォーラム「地域おこしと知的財産」にいたるまで盛りだくさんのイベントが開催されました（発行済み「IPE通信」の予定・記録コラムを参照）。



このうち、「知財入門」は新生にとって目新しいものであったためか盛り上がりを見せている（受講者170名超）ものの、ほかはそれほどでもなく、とくにイベント関連では活況を呈しているとはいいがたい状況にあります。そのため、いかにして全学的な関心を高めることができるか、が課題となっています。

イベント等の実施時期や宣伝広告方法等の改善が望まれるところですが、それにも増してテーマの選定・煮詰めを十分に行うことが必要と思われます。政府が知財立国のかけ声のもとにやっきとなって知財の普及に努めていることに応じて、上から降ってきたように単に「知財」を語るだけでは不十分なのです。実は「知財」は、気づかれていないだけで身近に眠っており、その活用を待っている、ということ意識化させる方向性が重要です。

「知財ワークショップ」は地域でのフィールドワークを通じて知財を身近なものにとらえ直す機会を提供し、また「地域おこしと知的財産」はそのことを地域おこしの実例のなかで示そうとしたのですから、そうした方向性に沿ったものであったわけですが、「地域おこしと…」が140名近い聴衆を集めたことは、こういう基本的な方向が間違っていないことを確信させます。さらに、本学知財教育の環境との関連性もこの文脈のなかで理解できるように思います。

今後も、著作権や特許情報が学生のみならず教員にとっても身近な存在で役立つものであることが実感できるような工夫を重ねることが不可欠です。この知財教育プログラムでは、上に述べたように多岐にわたる授業科目・イベント等を開催しています。これらのテーマを適切に選定し確実に実施していくためには組織的にしっかりした体制が望まれます。教員の知財についての関心を高め、本取り組みへの参加教員の増加へと結びつけ、その体制を整えることも課題です。

現代GP活動予定

3月16日
GPフォーラム

現代GP活動記録

1月12日
知財教育フォーラム
「地域おこしと知的財産 環境と両立するむらおこし・まちおこしのための知的財産活用術」

1月13日
三重大学知的財産教育研究会・特許庁主催 第2回知財教育シンポジウム参加
(工学院大学)

岩手大学知的財産教育実行委員会

〒020-8550
岩手県盛岡市上田三丁目18番34号

知財教育推進部事務局

電話 019(621)6749
FAX 019(621)6749
Email: chizai@iwate-u.ac.jp



ホームページもご覧ください。
<http://chizai.iwate-u.ac.jp>

岩手の“大地”と“人”とともに

デザインと知的財産(1)

工業デザインと呼ばれる分野が専門です。有名な言葉を借りれば「機関車から口紅まで」がデザインの領域です。現代風に言い換えれば「宇宙船から携帯電話まで」という表現になるかと思えます。街中を歩いているとあちらこちらからデザインという言葉を目にします。デザインの専門家からするとデザインという言葉が頻繁に使われていることは嬉しい反面、社会で一人歩きしていることに違和感を覚えます。しかし、これは職業としてのデザイン行為と皆さんが日常的にモノやコトをデザインする行為があるので当然のことです。今回は前者のデザインを知財とからめて少しお話をします。デザインが専門の職業、つまりデザイナーです。私自身が岩手大学で教鞭をとる前は東京でデザイナーを職業としていました。月に数回は弁理士さんと会っていた気がします。デザイナーは形や色を考える職業と思われがちですが、それだけではありません。人々がどのようなコト、つまり、どのような生活を求めているのか？人々が当たり前前と思って生活している行為に不思議や不満はないのか？等の疑問を発見しモノにして提案します。提案する過程ではさまざまなアイデアがでてきます。そのアイデアが特許に発展する場合がありますし、既に特許になっている場合もあります。特許になっているアイデアは提案できませんので、特許になっていることを知らずにアイデアをそのまま進めてしまうと時間を浪費していることになってしまいます。また、アイデアをモノとしてカタチ化する段階においても、意匠登録を検索し、類似してないか否かを判断し、最終的なカタチをデザインしていきます。例えば、今では当たり前のように使っている折り畳み式の携帯電話は既に特許があり自由にデザインできないことがありました。このように、デザイン行為の過程でデザイナーは知財と深く関わっています。

(文：教育学部助教授 田中隆充)

京都教育大学の知財教育—小学校と上手く連携—

12月16日(土)に開催された京都教育大学の知財教育セミナーに参加してきた。京都教育大の現代GPは「知的財産創造・活用力を育成する教員の養成」で、特色としては、京都市教育委員会と連携して4つの小学校と教材開発の共同研究を行っていることである。それぞれが「民話」「京野菜」「デザイン」「先端技術」というテーマを持っている。

参考となるのは、これら協力校の選定は教育委員会から推薦されたものであること。やはり教育委員会が間に入ることで小学校との関係が上手くできている。もう一つは、「民話」は国語教育、「京野菜」は家政教育、「デザイン」は美術教育、「先端技術」は技術教育、理科教育というように、講座が分担することで、教育学部全体で知財教育に取り組んでいる。以上2点は、岩手大学にとって参考になる。

セミナーでは、弁理士会の小中学校支援チーム・羽鳥弁理士によるワークショップが行われた。今年度は中学生向けの「弁理士：田島小五郎」という電子紙芝居が加わった。これは、声優を交代で取り組めば、教員を志望する学生を対象に実施しても有効だと感じた。

(文：大学教育総合センター長 玉真之介)